

CONTENTS

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談 第31回 ゲスト 吉田 都さん●バレリーナ

舞台が次のエネルギーに	4
長官コラム 文化庁の抜穴	9

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート⑩	
宮崎県総合博物館(宮崎県)	22
芸術文化の活動風景 ⑦	
三澤洋史(新国立劇場合唱団指揮者)	23
そうかこうすればいいんだ! 著作権教育実践事例 ⑦	
身近な事例から学ぶ「著作権」	24
文化交流使の活動報告 ⑦	
高岡美知子(客礼人形研究家)	25
伝建地区を見守る人々 伝建歳時記 ⑦	
くらしきまちや賞対談	26
遺跡を楽しむ ⑦	
小学校の中の遺跡	28
文化庁の地域文化振興施策 ⑦	
全国高等学校総合文化祭 徳島大会を振り返って	29
国語研究の最先端 ⑦	
日本のふるさとことば	30
風を呼ぼう、わが町に 登録文化財との歩み ⑦	
畑田家住宅からの文化の発信 畑田塾、公開、フォーラム	31
文化カニユース from 関西 関西元氣文化圏の特色ある取組 ⑦	
点と点をつなげてネットワークづくり	32
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法—文化財鑑賞の手引き—⑩	
仏像・肖像・神像	33
日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持団体編 1	
琉球藍製造(琉球藍製造技術保存会)	34
政府における模倣品・海賊版対策の相談対応体制を整備	35
第54回全国民俗芸能大会	36
第51回文化財保護強調週間	36
第46回(平成16年度)「教育・文化週間」のお知らせ	37
京都国立博物館	
特別展覧会 古写経—聖なる文字の世界—	38
東京国立近代美術館 工芸館	
「人間国宝・巨匠コーナー」で近代工芸・デザインの名品を	39
京都国立近代美術館	
痕跡—戦後美術における身体と思考	40
国立西洋美術館	
オランダ・マネリスム版画展	41
国立国際美術館	
開館記念展 マルセル・デュシャンと20世紀美術	42
奈良文化財研究所 飛鳥資料館	
秋期特別展 古代の梵鐘	43
東京文化財研究所	
第28回文化財の保存および修復に関する国際研究集会	44
第16回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会	44

文化庁ニュース

イベント案内

新しい時代に対応した著作権施策の展開	著作権課	20
流通新時代の著作権	吉川 晃	10
事例紹介		
動きはじめた電子書籍ビジネスと著作権	平井彰司	12
音楽流通の新たな展開 着うたと音楽配信	高堂 学	14
ブロードバンドによるコンテンツ配信事業	株式会社バンダイチャンネル	16
エンターテインメント・ロイヤル・ネットワーク	松田政行	18
施策紹介		

特集 著作物の流通の新たな展開

今月の表紙

第28回全国高等学校総合文化祭(徳島大会)より

新国立劇場スポットライト	45
11月の国立劇場	46
芸術文化振興基金ニュース	47
題字デザイン 桑山弥三郎	

舞台が次のエネルギーに

ユネスコ平和芸術家の任命

河合 ユネスコの平和芸術家に任命されましたこと、おめでとうございます。任命されたご感想はいかがですか。またお仕事の内容はどういうものですか。

吉田 大変光栄に思っております。驚きました。

私の仕事は教育のほうになります。子どもたちがバレエや、世界中にあるいろいろな踊りをおして、その背景にある文化を学んだり、本当にバレエを踊りたいと思ってくれたり……。そういうことに少しでも役立つこと。子どもたちが芸術に触れることで、今後に良い影響があるといいなと思います。

河合 吉田さんは国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と難民教育基金などを通じて、難民の教育支援に役立てる支



援公演を行っているとかがありました。

吉田 きっかけは、イギリスでチャリティー公演の機会が多かったことです。いつも大変いい試みだなと思っており、日本でできたらうれしいなと思っております。でも、私一人では何もできません

で、太刀川瑠璃子先生のスターダンサーズ・バレエ団と一緒にやっています。

バレエとの出会い

河合 吉田さんは英国ロイヤルバレエ団でプリンシパルとして活躍されていますが、バレエをされたきっかけはあるのですか。

吉田 私は幼稚園のときにお友達の発表会を観て、そこで「私、これがやりたい」と思い、そのままにまだに続いています。最初は、小学校一年生になって、お遊戯教室のようなところに行ったのですが、トウシューズを履きたいという憧れがあって、小学校三年生のときから本格的に始めました。

河合 それは少し遅いぐらいですね。日本ではもっと早くからやるでしょう。

吉田 あまり早くても、自分で覚えたいと思う気持ちが出てはいいかもしれません。子どものときはまだ体ができていないので、体を壊してしまうおそれもあります。河合 僕もそう思うのです。あまり早くからやるのは、親の意思のほうが強いで

しょう。子どもが嫌に思うことがありますね。吉田さんの場合は、自分がやりたいと思った。これはすごく強いですよ。

吉田 ええ。厳しいお稽古になるのはもつと遅くてもいいと思います。最初は音楽と一緒に遊ぶような気持ちで。

河合 日本はバレエができるところが多いですね。それがいいか悪いかわかりませんが、学校もバレエ団も多いです。

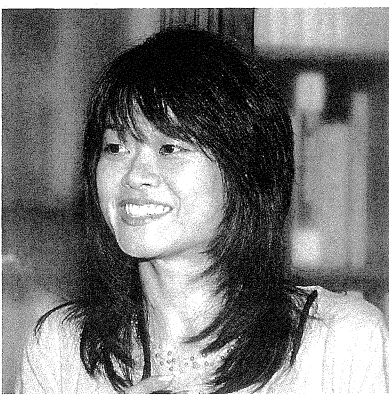
吉田 バレエに携わっている方が多いというのはいずれです。ただ、すぐに誰でもバレエ学校に行けるので、きちんとしたバレエの技術を教えられるのかなという心配があります。けがをして踊れなくなったら大変ですから。

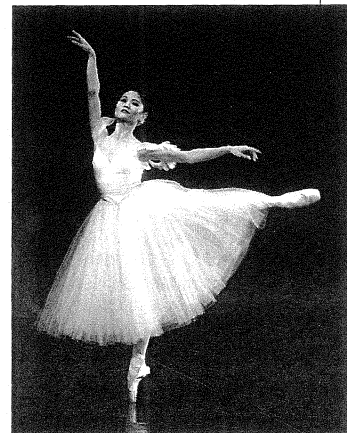
河合 けがは大変ですね。トウシューズ一つにしても、足に合っているかどうかで、けがの危険が増えるでしょう。

吉田 本当です。不自然な型の靴ですから。私も、靴が合っていないのを知らなくて、足を傷めたことがありました。

トウシューズは手づくりなので、一足微妙に違います。少しでも違っていると、立ったときの感覚が変わってしまうので、

よしだ・みやこ バレリーナ。9歳でバレエをはじめ、石沢秀子氏に師事した後、松山バレエ団に入団。昭和58年、第11回ローザンヌ国際バレエコンクール（スイス）でローザンヌ賞を受賞。イギリスのロイヤル・バレエ・スクールに留学後、サドラーズウェルズ（現バーミンガム）・バレエ団に入団。平成3年には英国のダンス雑誌『Dance&Dancers』の人気投票で第1位に選ばれる。平成7年より、英国ロイヤルバレエ団に移籍しプリンシパルとして活躍。今回、日本人としては2人目のユネスコ平和芸術家に任命された。





©瀬戸秀美

一〇足試しにはいてみて、実際に公演に使えるのは一足か二足ぐらいです。

河合 踊っている間に、ちよつと違和感があったら大変ですね。

吉田 もう気になって気になってしようがないです。舞台の直前に、やつぱり合わないからつかえる人もいるのですが、私はそういうおそろしいことはできないので、あきらめて、今履いているシューズでやってしまおうという感じですよ。

河合 靴は長持ちしないものですか。

吉田 しないですね。大抵一回の公演でだめになります。本当にはきやすいシューズが一足決まっています、それがいつでも履けたら、ストレスが半分になります。

河合 例えば、吉田さんのためにと言っ

て作ってくれる作り手はいないのですか。

吉田 何か問題があると、すぐいらしてくださり、いろいろ変えて、合うように作ってくださるのですが、やはり一足ずつ違います。

河合 わかりますね。極端に言えば、その日の天候や舞台の状態など要因がたくさんあるわけでしょう。それがよかつたからといって、次の舞台のときに同様にいいとは限らない。それに、音楽も舞台によって違うでしょう。

吉田 違いますね。指揮者やオーケストラによつても変わります。テンポなどこちらから希望を指揮者には伝えますが、毎回違うダンサーと一緒に公演をやっていますと、指揮者のほうがわからなくなつてしまふみたいですね。たまに私が合わせなくてはならないときもあります。

世界のバレエに触れて

河合 いろいろな国を回られるでしょう。

世界中へ行かれると、そこそ文化の違いをよく感じませんか。

吉田 感じます。お客様の反応もまった

く違います、それもおもしろいです。

例えば、アメリカは大変反応がいいとか、喜んでくださいます。意外とロンドンのお客様のほうが、厳しいと思いました。でも、ダンサーとしてはうれしいですね。

日本で踊るときは、いつもお客様に助けられているという気持ちが強いです。昔は静かに、お行儀よくというイメージがありました、今は舞台上に立つていて、すごく感じるものがあります。それがエネルギーになりますね。

河合 バレエのトレーニングは、日本とロンドンではだいぶ違いますか。

吉田 そんなには違いがありません。最近、日本の方もよくイギリスにお稽古に来ていますので、そこまで違いは感じませんでした。

河合 イギリスとロシアは違うのですか。

吉田 ちょうど日本に帰ってくる前に、ロンドンにポリシヨイバレエ団が来ていましたので、そこで一緒に稽古をさせていただいたのですが、スピードがすごく、エクササイズ一つ一つもシンプルな

ものをポンポンポンとやっていくのです。ロイヤルバレエのお稽古は、もう少し時間をとって、ステップももっと込み入ったステップを踏みますね。

作品についても、ロイヤルのほうは感情が入っている気がします。ロシアのダンサーというのは、踊りがメインのような感じですが、イギリスは割と演技するほうに重点を置いていますので、違いは感じました。でもトレーニングについては、ロシア式も体が強くなるかなと思います、すごくいいなと感じました。

河合 プリンシパルというのは大変だと思えますが、いかがですか。

吉田 プリンシパルのレベルを維持するための普段のトレーニングも大変ですが、それ以上にいつもがけつぷちに立たされているような気持ちで、精神的プレッシャーというのはすごく感じます。毎年若くて優秀な人たちがどんどん入ってくるわけですから。私がいることで邪魔したくないなという気持ちもあるのですが、できる限り頑張らなくてはというのがあります。それなりの舞台を観せないとい

日本人とバレエ

河合 日本人ということを意識するときがありますか。

吉田 仕事や生活してはあまり感じないのですが、やはり見た目はまったくほかの人と違うので、すごく意識をしていました。最近は表現するにあたつても、日本人的だと言われていますが、自分で意識してこういう風にしようと思つているわけではなく、自分が感じるように演技をする、自然に出るみたいです。

河合 自分が感じるようにやった場合に、



日本的だと言われるのは、ポジティブとネガティブと両方ですか。

吉田 両方あると思います。最初、イギリスに行ったころは、自分の中ではネガティブなことが多かったのですが、今はポジティブに感じられるようになり、日本人だから今こうしてあの中でやっていると、思っています。それはすごくラッキーなことだとも感じられるようになってきました。ただ、やはりバレエを踊るにあつては、不利な部分も多いです。演技にしても、向こうの人はごく自然に入っているのですが、私は最初、すごく苦労しましたね。

河合 日本の普通のジェスチャーをする、と、向こうと違うからでしょう。

吉田 向こうの人だと普段のしぐさをもう少し大きく見せればいいのかから。私は最初から学ばなくてはいけませんでしたが、数をこなすことによって、だんだん身につけてきました。

それに、舞台を重ねていくうちに身についたこともありますし、自分の中で変えていったものもたくさんあります。

河合 今、日本人でバレエをやっている、海外へ行っている人もすごく多いですね。そういう人たちには、日本人でプリンス・パルをやっている吉田さんの存在は励みになるのではないですか。

吉田 そうだといひですね。私も特にバレエ団に入ったばかりの人たちを見ると、
「ああ、大変だろうな」と思います。自分が通ってきた道なので、苦勞もよくわかりますし、応援したくなります。

河合 これから海外に出ようという人にアドバイスはありますか。

吉田 私が向こうで会う人は、自分の考えをきちんともち、目標をもって行かれています。みんな若くてもしっかりといるので、アドバイスなんてありません。自分のやりたいことを見つけて、それに集中していますね。向こうは集中できる環境も整っていますから。

河合 今の若い人は、我々のころほどのカルチャーショックも受けないでしょう。僕らの年齢だったら、ともかく相手が西洋人だというだけで、何か負けるのですよ。向こうのほうが偉いような気がする。

のです。英語をしゃべられただけで、「負けた」と思うてね(笑)。

吉田 今の若い人たちはとてもよく溶け込んでいます。最近もまた日本人がロイヤル・バレエ団に入りましたが、英語がそれほど話せなかったとしても、それを恥ずかしいと思わず、勉強しながらでも言いたいことはちゃんと言う。

河合 僕は、言いたいことも言えないんですがね。

吉田 私もそうでした。でも、「英語がちゃんと話せないのですが」と言うと、イギリス人も「いや、私はもつと日本語が話せません」と言ってくれるので、気分的には助かりました。

これからのバレエのために

河合 こんど、子どもたちにワークショップをされるそうですが、どんなことをされるのですか。

吉田 今回はじめて行うのですが、最初はビデオでバレエの紹介を少ししてから、私が少しソロを踊りまして、それから子どもたちと一緒にマイムや、バレエなど

のステップをやってみたいです。一般のお子さんが多いので、そんなに難しいステップはできないと思うのですが、バレエを踊ってきたという気分になれるようにしたいと思っています。

河合 このごろ、本物の芸術家に子どもたちが接することができるよう、小学校や中学校にバレエ団に行ってもらっています。そのときに少し踊ってもらうと、ものすごく子どもたちは喜んでいてみたいです。

吉田 学校に行くと、質問とかもかわいいですね。終わって帰ってきたときに、心がポカポカしたような覚えがあります。今こういうことをやりたいな」とずっと思ってきたことで、今回、実現してすごくうれしいです。

河合 日本のバレエもずいぶん盛んになってきていますが、これからますます振興させる意味で何か考えられることはありますか。

吉田 日本は今、すごくいいダンサーもそろっていますし、あとはバレエ団の公演回数が増えるといいなと思います。今

は一つの作品を二回とか三回しか行いませんが、一年をとおして多数の公演ができたらいと思ひます。

河合 日本は少ないですね。ロンドンだったら何回くらいやりますか。

吉田 作品にもよりますが、多いときは二〇回という公演もあります。その合間に違う作品を行うときもありますね。

河合 舞台は日本中にあるので、もつと地方へ出ていくことも必要かもしれません。そこでバレエファンを増やしていく。

吉田 本当にそうですね。地方の方で、「東京公演ばかり多くて、地元ではなかなか観られない」とおっしゃる方も多いです。

河合 それに、中学校、高等学校でも、もう少し踊りに触れる機会があればいいのですが、今はどうしても体育の時間に少し行うだけです。

吉田 それもないときがあると聞かれています。私も、学校にも行ってバレエを紹介したいと思ひます。

シューベルトの「父親殺し」

題を見てギョッとされたかもしれぬが、シューベルトは一四歳のときに「父親殺し」という歌曲をつくっている。丹波の森国際音楽祭ニューベルティアーデの一〇周年記念に参加したが、総合プロデューサーでテノール歌手の畑儀文さんが、この曲を歌われた。

人間は青年期になると、心の内界において「母親殺し」「父親殺し」を象徴的に成し遂げて自立してゆく。その後に依存の対象ではなく、一人の人間として父や母を見ることができるようになつ

文化庁の抜穴 河合隼雄

て、あらたに尊敬の気持ちが生じてくる。この間に親子の間でいろいろと葛藤が生じるがそれが克服されてゆく。

シューベルトはさすがに天才でこの経過が早く、「父親殺し」の三年後に「父の命名日のために」祝いの曲を作曲している(これも当日歌われた。美しい曲である)。

東京の一種集中を排し、日本の各地で文化的な催しのあるのを歓迎している。丹波の森でこんな音楽祭が一〇年も続いている。すばらしいことだ。

◆長官対談◆
 「文化人の本音」河合雄雄文化庁長官対談
 竹本住大夫 人形浄瑠璃文楽 太夫
 「長官コラム文化庁の抜へ」

◆特集◆ 文化ボランティア活動の推進

「文化庁提言」
 文化ボランティア活動の推進に向けて
 「有識者提言」
 博物館・美術館における
 文化ボランティアの可能性：井上洋一
 全国に文化ボランティアの花を咲かせる
 「事例紹介」
 NPO法人福井芸術文化フォーラム
 子どもの美術教育をサポートする会
 「施策紹介」
 「文化ボランティア推進モデル事業」概要
 平成16年度「文化ボランティア推進モデル事業」
 採択団体一覧

◆文化庁ニュース◆
 第五一回日本伝統工芸展
 文化財新指定（美術工芸品関係3） ほか

編集後記

今月号は、「著作物の流通の新たな展開」という特集をお届けいたしました。
 特集の中でも触れていますが、音楽配信は、今年の四月から本格的にスタートしました。その背景には、AppleのiPodやiTunesの好調が影響を与えているのかもしれない。ただ、現在の音楽配信は、専用のプレイヤーでしか聞けないため、まだポータブルプレイヤーとの連携が取れていないようです。今後、音楽配信が普及していくには、使いやすさと、ポータブルプレイヤーとの関係が鍵になってくるのではないのでしょうか。

◆連載◆

「いきいきミュージアム」美術館・博物館事業レポート
 倉敷市立美術館（岡山県）
 「芸術文化の活動風景」
 面（おもて）は生きている
 「うかこうすばいんだー！著作権教育実践事例」
 e-learningを利用した著作権教育
 「文化交流使の活動報告」
 舞台照明家・松本直み
 「伝建地区を見守る人々―伝建歳時記―」
 重伝建選定（〇）年を迎えて（三重県関町）
 「重伝建選定」
 純文に触れて遊ぼう
 「文化庁の地域文化振興施策」
 平成二年度第二四回国民文化祭開催に向けて
 「国語研究の最先端」
 電話相談
 「風を呼ぼう、わが町に―芸術文化財の歩み―」
 近代の銘仙のまち 秩父の歴史的建造物
 「文化力ニュース」関西 関西芸術文化圏の取組
 京都校定
 「国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法」
 うつわを飾る
 「日本の伝統美と技を守る人々」
 祭屋台等製作修理・祭屋台等製作修理技術者会

eブックは、今年が本格的な電子出版元年と言われているように、専用端末の発売や作品数の増加によって、大きな市場ができあがりつつあります。既存の紙の書籍と電子書籍は、例えば、レジャー等を持つていくときは電子書籍、自宅であつくり読むときは、紙の書籍など互いの特徴を生かして住み分けることによって、利用が増えていきそうです。
 著作物の流通の変化が、著作物に対する我々の考え方やかわり方そのものを変えていくことになるかもしれません。（鑑）

文化庁月報 10月号（通巻433）

平成16年10月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行—株式会社 きょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
 本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
 電話 編集 03（3571）2126
 販売 03（5349）6666
 URL：http://www.gyosei.co.jp

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円
 年間購読料6,480円
 本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
 (株) ぎょうせい営業部広告課
 電話03（5349）6657（ダイヤルイン）
 ©2004 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●
<http://www.bunka.go.jp>